

ハヤブサ（ハヤブサ科） オス 38 センチ・メス 51 センチ

食物連鎖の頂点に君臨する猛禽類ハヤブサ。

大仙市内にハヤブサの営巣地が2か所もあり、他に誇れるほどの自然環境が豊かであることを証明してくれました。1996年（平成8年）、大仙市内で初めての繁殖が確認された。それから25年経過したが、現在も繁殖地の蛭川ではハヤブサの姿を見ることが出来ます。同じ場所にこんなに長く棲息するとは予想していませんでした。

営巣地の近くで毎年行われてきた、全国花火競技大会。ものすごい轟音と、目もくらむような閃光が延々と何時間も続きます。こんな環境ではいかにハヤブサでも遠くに飛び去り、暫くは戻ってこないだろうと思っていた。しかし、翌日には何事もなかったかのように、いつもの岩場に佇んでいた。



営巣地の上にある止まり木に、1羽が戻って来た。

花火に慣れたこともあるでしょうが、ここが特に気に入った場所で放棄することはありませんでした。25年前に繁殖を確認してから毎年雛の誕生を確認してきたが、6年前から昨年まで雛の誕生が見られません。滞在年数も大分経過しているので、もう繁殖は無理かなと思っていた。

ところが今年6月20日、蛭川の石切山に出掛けたら幼鳥が見つかり一瞬目を疑った。今年は観察回数が少なかったことから、繁殖の兆候を見落としていたのです。



仲良く並んだ。



大きく羽を広げた。

3羽の幼鳥は巣立ち後、2週間以上経ったのでしょう。何れも親とほぼ同じくらいの大きさに育ち、大空を自由に飛び交っている。

久しぶりのヒナの誕生、しかも3羽。まさかの誕生であり、嬉しいことである。今年は旧中仙町のハヤブサも3羽のヒナが巣立っているのので、市内6羽の誕生ラッシュとなりました。



お腹の様子は縦縞ですが、成鳥になると横縞に。



よく見ると羽縁が白く、幼鳥の証。